

税収昨年度は過去最高

消費税、初めて所得税抜く

財務省は5日、2020年度の国の一般会計の税収は、前年度より2兆3801億円多い60兆8216億円で過去最高だったと発表しました。19年10月に税率が10%になった消費税の増税分が初めて年間を通じた収入

となり、消費税は税の種類別で初めて所得税を抜いて最大となった。コロナ禍だったが、法人税や所得税も前年度を上回った。▼経済面―果ごもり需要影響か

税収が過去最高となったのは18年度の60兆3564億円以来2年ぶり。55兆1250億円に下方修正した昨年末時点の予想より5兆7千億円近く上ぶれた。内訳では、消費税が前年度より2兆6187億円多い20兆9714億円で過去最高となり、税収全体の34

・5%を占めた。法人税は、4375億円増の11兆2346億円と、昨年末時点の予想より3兆円以上上ぶれた。海外経済の回復を追い風に製造業などの回復が予想以上に早かったためとみられる。

所得税も前年度より191億円多い19兆1898億円だった。働き手の収入が予想ほど落ち込まなかったことや、株価上昇を受けて金融所得が増えた影響などもあったという。(吉田貴司)

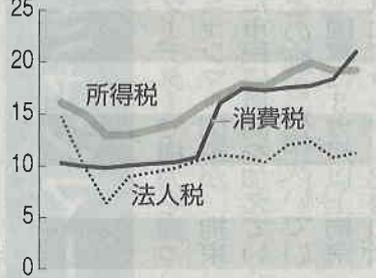
法人税増収 後押し

増収最高 巣ごもり需要 影響か

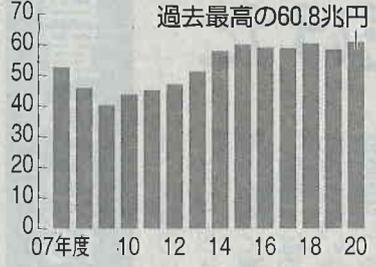
国の税収が2020年度に過去最高を更新した。当初の予想に反し、コロナ禍の増収への影響は限定的で、消費税、所得税、法人税の基幹3税がそろって前年度実績を上回った。巨額のコロナ予算の使い残しもあり、20年度決算で余った「剰余金」も過去最高の4兆円台に達した。

衆院選を控え、与党などからは歳出圧力が強まりそ
うだ。▼3面参照
財務省が20年末時点で予想した増収に比べ、約5兆7千億円の上ぶれとなり、この幅も過去最大だった。最も上ぶれたのが法人税だ。8兆円余りと見込んでいたが、実際には約1.4倍の11.2兆円だった。財務省の担当者は「通信やゲーム、電機などが好調で、増収につながった可能性はある」と話す。「巣ごもり

主要3税の増収の推移



増収総額の推移



り需要」や海外輸出で好調だった業種の伸びが大きかったとみられる。初めて税項目で最大となった消費税も約1兆7千億円上ぶれし、20・9兆円と、過去最大となった。税率が10%になった増税分が通年で寄与したことが大きく、一般に景気動向に左右されにくい安定財源と言われる消費税の存在感が際立つ結果となった。

同じ日に公表された20年度決算では、予算の使い残しなどで出た「剰余金」が過去最大の4兆5363億円に上った。増収の上ぶれに加え、予算の使い残しが4兆円近くに上ったことが大きかった。剰余金の一部は補正予算の財源として使われることがある。今年秋までに衆

院選があるため、与党の一部にはすでに補正予算などで追加の経済対策を求める声も出始めている。だが、増収は過去最高でも、20年度の歳出は多くが国債発行に支えられており、借金頼みの財政状況に変わりはない。無駄な歳出が膨らめば、財政悪化に拍車がかかりかねない。

(吉田貴司、榊原謙)